

「棚卸」の上手な進め方

第4章

特徴を踏まえた資産台帳を整備する 固定資産棚卸のポイント

アセットインベントリー(株) 岸本 安生
新日本有限責任監査法人 渡辺 健一
公認会計士

固定資産は、貸借対照表上大きな金額を占める企業は多い。

取得時には、発注から検収にわたる一連の業務フローが決まっているものである。しかし、取得後の財産管理についても、財務報告の信頼性や資産の保全のためには重要であり、しっかりした業務フローが構築されていなければならない。

本稿では、取得後の財産管理の方法として固定資産棚卸(固定資産実査とも言われる)について考察する。

固定資産棚卸の重要性

内部統制は、企業の4つの目的(①業務の有効性および効率性、②財務報告の信頼性、③事業活動に関わる

法令等の遵守、④資産の保全)の達成のために企業内のすべての者によって遂行されるプロセスである。4つの目的は相互に関連を有しており、企業は、内部統制を整備・運用することにより、4つの目的を達成する。

4つの目的のうち、②財務報告の信頼性とは、財務諸表および財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性のある情報の信頼性を確保することをい、④資産の保全とは、資産の取得、使用および処分が正当な手続および承認のもとに行われるよう、資産の保全を図ることをいう。

固定資産の棚卸は、主に前記2つの目的のために行われる業務である(図表1)。

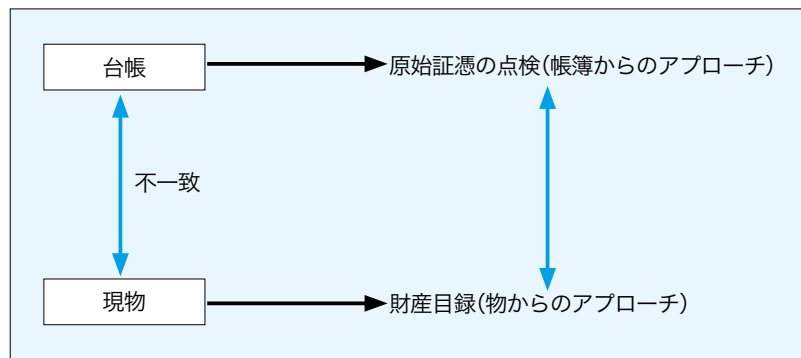
また、昨今、たとえば小売業では、

店舗のスクラップアンドビルドが頻繁に行われ、使用できる資産については次の店舗で使用することが多くなっており、資産の管理が重要になってきている。

固定資産は長期にわたって所有し使用される。棚卸資産は帳簿と現物との照合を年間棚卸実施計画に基づいて実施され帳簿記録が適宜修正されるが、固定資産は一度台帳に記録されると、台帳の記録をアップデートすることがおろそかになりやすい。結果として、年数の経過とともに現物と帳簿との照合に困難な状況、また不一致が発生する可能性が高くなっている。

そのようななか、現物を特定するために、財産目録を作成して帳簿の記録と照合することが必要な場合がある。

(図表1) 固定資産棚卸の目的



固定資産棚卸のアウトソーシング

財産目録を作成するために行われる固定資産棚卸を、アウトソーシングする場合がある。従業員が財産目録を作成すると先入観や予断が入りやすいので、アウトソーシングすることにより、現物の実在性について